「黒漆花鳥密陀絵箔絵喰籠」保存修復報告

幸喜淳[*1]　室瀬和美[*2]　鷺野谷一平[*3]

１．はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵「黒漆花鳥密陀絵箔絵喰籠」の保存修復処置は、平成 27 年 5 月 28 日～平成 28 年 3 月 30 日まで、目白漆芸文化財研究所内の修復施設において行われた。以下は修復内容を記録したものである。

なお、監督職員を幸喜淳とし、修復責任者を室瀬和美、修復担当者を鷺野谷一平とした。

２．名　　称

黒漆花鳥密陀絵箔絵喰籠　　１合

３．概　　要

八弁輪花形、二段重ね、印籠蓋造りの喰籠。内側は朱漆塗り、懸子の裏面および底裏面は黒漆塗りで、中央に朱漆で「山」の印が入る。合口部分は箔を押し、透漆がかけられている。蓋甲は円形で一段高く、円内に椿に鳥と蝶を配す。側面は、高台から二本の椿が対となって側面全体に枝を伸ばし、各所に鳥と蝶を描く。地を箔粉梨子地とし、椿の幹や葉・花、そして鳥・蝶の輪郭は箔絵で、葉・花・鳥・蝶それぞれの輪郭線内を密陀絵で表す。

法量：高さ 29.6　幅 27.7　(cm)

４．現　　状

塗膜表面は経年により付着したほこりが固化した汚れに覆われ、塗膜本来の艶を失っている。総体に木地収縮による亀裂が見られ、亀裂周辺の塗膜は浮いており、触手により剥落する危険性がある。また後補と思われる箇所が各所に見られ、一部、粗雑にパテ状の充填剤が付けられている上に補彩されている。

５．修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行うこととする。修復に際しては、充分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復工程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後に報告書を作成し提出する。

＊１　一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課　調査展示係長
＊２　目白漆芸文化財研究所　代表取締役
＊３　目白漆芸文化財研究所　修復技術者

６．修復作業

＜修復前撮影と調査＞

修復前に、修復後との比較ができるよう写真撮影を行った。また、素地、下地、加飾および現状の傷みを調査記録し、修復作業工程を確認した。

修復作業に入る前に、安全に作業が進められるよう設置台の製作を行った。

＜クリーニング・養生＞

クリーニングに入る前に、亀裂周辺の剥離塗膜の剥落と紛失を防ぐ目的として養生を行った。養生は、細かく短冊状に切った雁皮紙を糊貼りし養生とした。

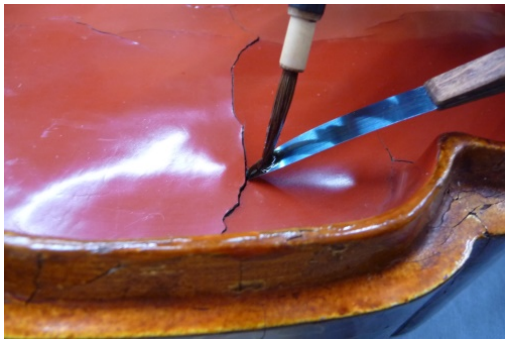
その後、毛棒で全体のほこりを払い、水を僅かに含ませた柔らかい木綿布および綿棒で、塗膜汚れを数回に分け少しずつ取り除いた。一部取りきれないものは、水とエタノールを混合した溶液を使用した。亀裂周辺は塗膜剥落の危険があるため、塗膜の押さえを施した後にクリーニングを行った。

＜充填剤の除去＞

過去の修復で、損傷部に粗雑に施されたパテ状の充填剤は、担当者と協議の結果、展示する上で違和感のある部分のみ除去を行った。充填剤の除去は周辺塗膜を傷めないよう慎重に行った。

＜亀裂含浸＞

総体に見られる亀裂および損傷部は、溶剤で希釈した麦漆を筆で含浸し、余分な麦漆は加飾部分や塗膜表面に残らないよう拭き取り、乾固させた。麦漆の含浸は、亀裂の深度により数回に分けて行った。



＜塗膜押さえ＞

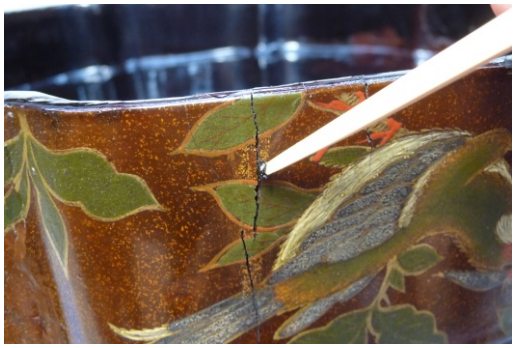
亀裂際の剥離した塗膜は、溶剤で希釈した麦漆を筆で含浸し、余分な麦漆を拭き取り、クランプおよび木枠と竹ひごの弾力を利用した心張り法により圧着し安定させた。亀裂は総体に見られるため、この作業を繰り返し行った。しかし、過去に行われた修復で、剥離した状態で段差のあるまま固められてしまった塗膜は、動かないため無理に押さえないこととした。

＜刻苧充填＞

亀裂の隙間や欠損部は、麦漆に麻の繊維や木粉を混ぜた刻苧を充填し、塗膜面より一段下げた状態で形状の復元を行った。刻苧の充填は、亀裂の深さや幅に応じて木粉の粗さを適宜変えて、数回に分けて行った。乾固後、刻苧部分を砥石および刃先の細い刀で、周りの塗膜を傷めないよう注意して整えた。

＜下地付け＞

刻苧部分の表面や塗膜の欠損部分には、水分を含ませた地の粉と生正味漆を混ぜ合わせて充填する下地付けを行った。乾固後、下地表面は砥石および刃先の細い刀で、周りの塗膜を傷めないよう注意して整えた。



＜際錆＞

下地付けを行った部分および圧着により安定させた剥離塗膜の際には、漆分の多い麦漆に微細な地の粉（四辺地）を混ぜて充填する、際錆を施し、触手による塗膜の剥落防止とした。

＜漆固め＞

塗膜の強化と塗膜本来の艶を取り戻す目的として、漆固めを行った。漆固めは、黒漆塗膜面は生正味漆を、箔粉梨子地面および朱漆塗膜面は、梨子地漆に1割ほど生正味漆を混ぜて塗布し、その後、塗布した漆が塗膜表面に残留しないように拭き取り、乾固させた。

＜修復後撮影と報告書作成＞

修復後の写真撮影を行い、修復記録をまとめ、報告書を作成した。

７．修復工程

①修復前撮影・記録
②クリーニング・養生
③充填剤の除去
④塗膜押さえ
⑤刻苧充填
⑥下地付け
⑦際錆
⑧漆固め
⑨修復後撮影・報告書作成

８．修復期間

平成２７年 ５月２８日～平成２８年 ３月３０日

９．修復場所

目白漆芸文化財研究所（新宿区下落合４−２３−５）内の修理室で行った。

修復前

修復後

全景

蓋甲面

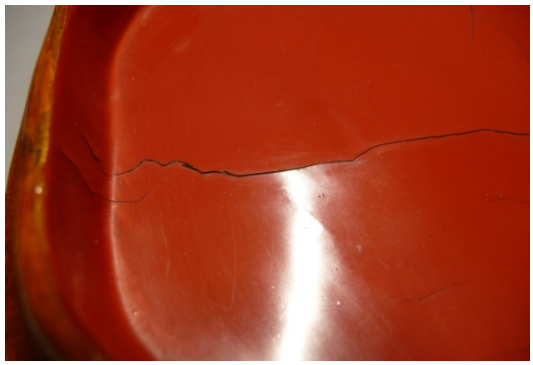
底裏面

修復前

修復後

蓋内

懸子側面



懸子表面

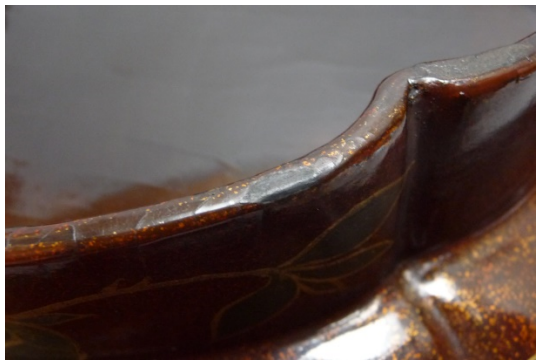
懸子底裏面

修復前　　修復後

身側面（後補）

身側面

身合口



畳摺